

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立あけぼの学園高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	○生徒一人ひとりが、あけぼの学園高校の生徒として「自信と誇り」を持ち、地域に貢献し地域から信頼される学校	
(2)	育みたい 児童生徒像	○授業に真剣に取り組み、部活動や資格取得にも積極的にチャレンジし成果をあげる体験を重ねて達成感、やりがい、自尊感情を高め、「自信と誇り」を持っている。 ○制服をきちんと着こなし、ピアス等の装飾品は身につけず、髪も含め高校生としてふさわしい身だしなみを整えている。 ○登下校時に交通ルールやマナーを守り、相手の目を見て挨拶し、規律ある行動や、地域に学び貢献に努める取組等により、地域から信頼を得ている。 ○多様性を尊重して他の生徒に寛容な態度で接し、かつ共通の課題に対し協力して取り組んでいる。
	ありたい 教職員像	○目指す学校像の実現に向け、「チームあけぼの」の一員として自校の存在価値を高めている。 ○絶えず授業改善に努め生徒の学力向上を図る。生徒の小さな成長の積み重ねに力を注ぎ、その成長を目にすることを自らの喜びとし、自らも成長しようとしている。 ○生徒及び教職員相互の多様性を尊重して寛容な態度で接し、かつ学校の抱える課題に協働して取り組んでいる。 ○様々な形で積極的に地域と連携・貢献し、地域とともに魅力ある学校づくりに取り組んでいる。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒> ○わかる授業、部活動の充実、安全・安心で楽しく充実した高校生活</p> <p><保護者> ○安心して楽しく過ごすことができる学校生活、学力向上・進路実現</p> <p><中学校> ○中学校に対する理解、多様な生徒の受け入れ、生徒個々への丁寧な指導と進路実現</p> <p><地域社会> ○学校・地域の連携強化、地域振興・活性化、学校の情報提供、地域の担い手育成 ○基礎学力、体力、コミュニケーション能力や社会的マナーを身につけた人材の育成</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p style="text-align: center;">連携する相手からの要望・期待</p> <p><保護者> 安全・安心な学校 基礎学力の定着、進路実現</p> <p><中学校> 丁寧で親身な指導 多様な生徒の受け入れ 生徒一人ひとりの進路実現 学校の情報提供</p> <p><地域社会> 地域の担い手育成 社会的マナーを身につけた人材育成 地域行事などへの参加と地域貢献 学校の情報提供、開かれた学校づくり コミュニケーション能力の向上</p>	<p style="text-align: center;">連携する相手への要望・期待</p> <p><保護者> 学校の指導方針への理解・協力・連携 学校行事への参加と助言</p> <p><中学校> 教育活動の相互理解 生徒同士の交流と教職員間の連携 学習習慣の涵養 基礎学力の定着 目的意識の向上</p> <p><地域社会> 地域の子どもたちが本校への入学を希望 学校行事への参加と助言 教育活動への理解と協力 本校への求人確保とその増加 インターンシップの受け入れと協力</p>

<p>(3) 前年度の学校関係者評価等</p>	<p>○成果発表会にもっと地域の方が参観してもらえそうな工夫があれば良い。 ○平成 29 年度入学生から着用することになった新制服は大変良い。 ○日頃からのあけぼの学園高校や教職員の取り組みは評価している。生徒の通学する姿は以前と比較にならないくらい良くなっている。引き続き頑張ってもらいたい。</p>
<p>(4) 現状と課題</p>	<p>教育活動</p> <p>○授業の質の向上を目指して、年に 2 回授業公開を実施した他、基礎学力定着・育成支援事業に係る公開授業を実施した。校外からは一定数の参観者を得て参観シートの提出率も高いが、校内教員による相互参観はあまり活発ではない。基礎学力が定着していない生徒や様々な課題をかかえる生徒もいるので、学習指導や評価方法を工夫したり、特別な支援や配慮するなどの必要がある。 ○多くの生徒が授業・クラブ活動等に熱心に取り組み、全校集会での整列や聞く態度にも大きな改善がみられるようになっている。一部の生徒指導上の違反を繰り返す生徒には根気強い指導を継続している。その際、担任や学年団に委ねることなく、全職員で指導し、普段から頭髪・服装に関して注意喚起していく必要が大いにある。 ○資格取得については受験者数の増加が見られるものの受験級がまだ低いため、1 度の合格で満足させずさらに上の級の受験を促したい。各種検定試験はその性質上、教科の授業と深く関わっているため、教科担当者からの受験への働きかけが有効である。また担任は進路指導の観点からも資格取得の有効性を生徒に説いていき、クラブ活動についても、入学時に進路面で大きく活用できることを生徒に説明し、積極的な入部を図りかけていく必要がある。</p>
	<p>学校運営等</p> <p>○情報発信については新聞やケーブルテレビを中心に報道されることが多いが、ポスターやチラシなどの定期的な配布など、中学生や保護者、地域に対する、より直接的な情報提供が必要である。 ○地域との連携や地域行事等への参加を通じて生徒の達成感や自己肯定感の向上などが期待される。今後も生徒の成長を柱に地域連携・地域貢献の取組を推進して学校活性化につなげるとともに、地域の活性化にも少しでも寄与していきたい。 ○教職員が健康で意欲を持って日々生徒の指導に取り組めるよう、ワーク・ライフ・バランスに留意し過重労働の防止やさらなるチームワーク向上を図っていくことなどが、小規模校である本校には大切である。</p>

3 中長期的な重点目標

<p>教育活動</p>	<p>○生徒に基本的な生活習慣の確立やクラブ活動・資格取得等への積極的なチャレンジを促し、基礎学力やコミュニケーション能力・体力を向上させ、生徒一人ひとりの希望進路実現を図る。</p>
<p>学校運営等</p>	<p>○情報発信を積極的に行い、地域のニーズを正確に把握した活動に取り組むことで、学校の活性化や地域貢献につなげる。 ○学校行事・会議・部活動等の精選・見直しも含め総勤務時間の縮減を図り、教職員が元気にいきいきと職務を遂行することができるよう努める。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>基礎学力・コミュニケーション能力・体力の向上</p>	<p>(1) 生徒の実態に即した学習指導を工夫し、基礎学力を定着させる。 【活動指標】 授業公開及びテスト前補習を各 2 回以上実施する。</p>	<p>①第 1 回授業公開 (5/8~5/13) 授業参観者数 9 名 参観シート提出 8 名 (12 枚) 第 2 回授業公開 (10/10~10/20) 授業参観者数 13 名</p>	

	<p>【成果指標】 レッドカードの件数が昨年度より減少する。</p>	<p>参観シート提出 8 名 (9 枚)</p> <p>② 第 1 回テスト前補習 (9/8～9/14) 実施科目 6 科目 対象生徒のべ 42 名 + 自由参加 第 2 回テスト前補習 (11/17～11/22) 実施科目 5 科目 対象生徒のべ 62 名 + 自由参加</p> <p>③ 前期末レッドカードの件数 1 年 2 名 (2 枚) 2 年 4 名 (4 枚) 3 年 1 名 (1 枚)</p> <p>* H28 年度 前期末レッドカード 1 年 0 名 (0 枚) 2 年 1 名 (1 枚) 3 年 1 名 (1 枚)</p> <p>(参考) 前期末イエローカードの件数 1 年 68 名 (152 枚) * 不要 144 2 年 61 名 (153 枚) * 不要 125 3 年 20 名 (37 枚) * 不要 2</p> <p>* H28 年度 後期末レッドカード 1 年 4 名 (6 枚) 2 年 11 名 (21 枚) 3 年 1 名 (4 枚)</p>	
<p>生徒指導の 充実</p>	<p>(1) 「そとみ」の指導に取り組む。</p> <p>【活動指標】 頭髪服装指導を行い、規律に則った学校生活を励行させる。</p> <p>【成果指標】 違反総数が昨年度より下回る。</p>	<p>各学年が主体的に指導項目を細分化し、指導基準を厳格化した結果、違反総数は昨年度の 2. 3 倍に激増、違反による特別指導も発生し、成果指標を達成できなかったが、徹底した指導の成果が 1 1 月頃より現れてきていると感じる。</p>	
<p>クラブ活動・ 資格取得の 推奨</p>	<p>(1) 生徒自身が学ぶ姿勢を身につけ、積極的に資格取得に挑戦するよう働きかける。</p> <p>(2) クラブ活動に参加するように積極的に働きかける。</p>	<p>< 1 学年 > ビジネス文書実務検定は 3 級合格 2 名。3 級速度部門合格 1 4 名。4 級合格 5 3 名。4 級速度部</p>	

	<p>【活動指標】 SHR、LHR、進路行事等を通して、資格取得やクラブ活動について、案内やガイダンスを行う。</p> <p>【成果指標】 資格試験、検定等の受験者やクラブ活動に参加している生徒数が昨年度を上回る。</p>	<p>門合格2名。4級ビジネス文書部門合格6名。部活加入者69名。 <2学年> 食物調理技術検定3級18名、4級19名合格。被服製作技術検定4級13名合格。書写技能検定3級3名合格。情報処理検定2級1名、3級9名合格。クラブ活動に参加している生徒64名。 <3学年> 第1回英語検定準2級1名、3級1名合格。第3回英語検定2級1名、3級1名受験。 食物調理技術検定2級5名合格。被服製作技術検定7名合格。 ビジネス文書実務検定2級1名合格、3級1名合格、2級速度部門1名、2級ビジネス文書部門2名合格、3級速度部門2名合格。 クラブ活動に参加している生徒57名</p>	
<p>キャリア教育の充実</p>	<p>(1) すべての生徒が進路を決定して卒業することを目指す。</p> <p>【活動指標】 生徒の希望を把握して、就職または進学に向けて指導する。</p> <p>【成果指標】 すべての生徒が進路を決定して卒業する。</p>	<p>学年ごと傾向が異なるが、早くから資格取得について挑戦する生徒も出てきている。また、進路選択のための時間割選択を意識している生徒も若干増えてきたように思う。 今年度も含め3年連続で学校紹介を希望する生徒の就職内定100%。 就職内定63名、進学内定11名。家事手伝い1名。</p>	

改善課題

- 2回にわたり授業公開を実施したが、昨年度に比べて校外からの参観者が減っているほか、校内の相互参観もあまり活発ではない。授業公開の時期、仕組み等を見直す必要がある。教職員それぞれが可能な限り学習指導の工夫を行っているほか、早めに・複数回にわたってイエローカードを発行し、単位の履修・修得に向けた生徒の指導に役立てることも定着している。今年度導入した教務部指導要否欄も十分に活用されており、イエローカードを発行しやすくなることにより授業担当者とHR担任との情報共有に寄与していると推測される。学習指導や評価方法の工夫、補習の実施につながる余裕を生み出せるよう、教務部として、誰もが仕事をしやすい環境づくりに引き続き努めていく。
- 指導項目と指導基準を再検討し、各学年で共有して指導に差が生じないよう配慮する。度重なる違反や著しい違反については特別指導も辞さない厳しい姿勢で臨む。

- 資格取得については、教科で全員受験を実施しているもの、また授業に深く関係した検定以外での資格取得をめざす生徒がほとんどいないのが現状である。今後もSHR等を通じて、資格取得を働きかけていく。クラブ活動に加入している生徒は多いが、実際に活動している生徒は多くなく、辞めた者も少なくない。部活動についても、積極的に取り組むよう働きかけていきたい。
- 最高学年で意識しだす生徒が多い為、次年度においても、生徒に就職・進学について深く考えさせ、学校生活の充実、基本的な生活習慣や基礎学力を身につけさせる必要がある。フリーターや縁故、方向転換はなるべく避けるため、本人・保護者と十分な話し合いが必要である。最終的には本人・保護者の意見を尊重したい。外国籍生徒の就職に向けて、早くからの支援や手立てを考える必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
情報発信・学校 活性化・地域貢 献	<p>(1) 人権だより「ことだま」を発行し、人権に関する話題や情報を提供するとともに、学校での生徒の様子や学習内容等を伝え、家庭での話し合いのきっかけを作る。</p> <p>【活動指標】 生徒及び保護者を対象として人権だより「ことだま」を発行する。</p> <p>【成果指標】 生徒アンケートにおける「人権に対する理解を深め、人権尊重の行動へつなげる」数値の向上。</p>	<p>(1) 「ことだま」は、第8号まで発行できた。</p> <p>後期の人権アンケートは、3月に1、2年次生に実施する。</p> <p>関係する生徒の地域センターと連絡会等で情報交換をして連携を図れた。</p>	
	<p>(2) 地域や中学校への情報発信を効果的にを行い、交流を進める中で教育活動の活性化を図る。</p> <p>【活動指標】 地域や中学校からの学校理解が進み、学校の活性化や地域貢献につながるよう、情報提供を効果的に行う。</p> <p>【成果指標】 地域アンケート(学校評価)で本校の教育活動の理解度が昨年度を上回る。</p>	<p>(2) 5月から毎月1回以上、伊賀市・名張市・亀山市内の中学校や地域の地区市民センターを訪問し、学校PRポスターや新聞掲載記事の冊子、イベントチラシを持参し学校PRに努めている。地域交流では「黒豆特産品化」「地域の各種イベント」「美容出前授業」「菜の花プロジェクト」「地域清掃」「献血啓発活動」「地域コンサート」「斎王群行」「お菓子作り交流」「地域開放陶芸教室」「絵馬奉納祭」等31回、生徒たちが地域交流し地域貢献につながるようになっている。地域アンケート</p>	

		での本校の教育活動の理解度は71.2点（昨年度72.5点）であった。	
チームワークの向上・意欲の増進	<p>(1) 教職員のワーク・ライフ・バランス改善の取組を推進する。</p> <p>【活動指標】 定時退校日を原則として月1回以上。年休取得の奨励。部活動の休養日を週1回以上。</p> <p>【成果指標】 定時退校日の達成率90%以上。全教職員の年休取得日数10日以上。全部活動の週1回以上の休養日の実施。</p> <p>(2) 勤務時間の縮減に加えて、若い教職員が意見を言い、活躍できる機会を提供する。</p> <p>【活動指標】 学校マネジメント委員会から学校改善活動の提案を行う。</p> <p>【成果指標】 教職員の満足度調査（仕事のやりがい）が昨年度を上回る。</p>	<p>(1) 定時退校日（17時退校日）を毎月1回（8月は2回）設けて、ワーク・ライフ・バランス改善の取組を推進している。定時退校日の平均達成率は87.9%である。年休取得平均日数は約14日間（昨年度11.5日）である。（総務事務システムによって1月からのカウント日数）。全クラブが週1回以上の休養日を各々で設けている。</p> <p>(2) 学校マネジメント委員会を20代、30代の教職員で構成し「職員清掃デー」「課題解決ミーティング」等の取組を実施し学校改善活動を進めている。仕事のやりがいに関する満足度調査の結果は昨年度57.4点に対して50.8点で下回った。</p>	

改善課題

- 次年度も、人権啓発に関する発行物を定期的に出すよう引き継ぎたい。アンケートの問いかけや、回答の選択の文言を精査する必要がある。地域センターとの連携は、必要であり今後も積極的に連携を深めていく必要がある。
- 地域アンケートは各項目とも近年高い評価を得ている。引き続き、情報発信や地域交流を行い、学校の活性化を図っていく。
- 年休取得は前年度日数を大きく上回っているが、課題は教職員の多忙感の解消である。引き続き、業務の効率化や連携協力体制づくりと併せて、取組を進めていく。「目指す学校像」の実現に向けてチームワークの向上・意欲の増進につながる取組を進めていく。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<p>○成果発表会は大変良かった。もっと地域の方が参加できるような工夫があればさらに良い。</p> <p>○平成29年度入学生から着用することになった新制服は大変良い出来栄だ。</p> <p>○日頃からのあけぼの学園高校、教職員の取り組みを評価している。生徒の通学する姿は以前とは比較にならないくらい良くなっている。引き続き頑張ってもらいたい。</p>
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「わかる授業」の展開に向け、授業の相互参観や授業改善を行う。 ○生徒が安全・安心な生活を送るために、職員間の情報交換を密にする。 ○充実した学校生活になるよう、積極的な資格取得への挑戦やクラブ活動の参加などをHR等で呼びかける。 ○希望する進路実現のため、生徒や保護者と十分な話し合いの機会を持つ。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地域センターとの連絡を密にし、積極的に連携を図る。 ○地域の方々に本校をより知ってもらうために、学校行事や授業の情報発信や地域との交流を行い、学校のPRに努める。 ○組織として業務に取り組み、協同してフォローをし合う体制づくりを行う。 ○オンサイトミーティングなどの職員間の意見交流の場を設け、課題解決に向けて適宜話し合う。 ○29年度入試では久しぶりに定員割れとなった。学校としての魅力の向上、そしてその魅力が中学生・保護者に伝わるような情報発信を行う。